

3. ネットワーク図にみる郊外の生活空間のイメージ

3-1. 生活空間のネットワーク図 3章では登場人物の移動によって関連付けられる滞留シーンの接続関係からネットワーク図を作成した。その際移動シーンと場面転換による2種類により接続し、資料ごとのネットワーク図がもつ領域的性格を考察した。ネットワーク図にはひとつの滞留シーンに多数の移動シーンが接続している**集中点**と(図6)、複数の滞留シーンの接続によって円環形状が形成される**環状ユニット**(図7)がみられる。それら集中点の個数と環状ユニットを形成する滞留シーンの割合の組合せによってネットワーク図の性格を位置づけた。<既往研究>の資料においても、同様の条件によって資料ごとのネットワーク図の再分析を行い、それらを郊外映画の資料と比較した(図8)。<既往研究>の資料では、集中点の数にかかわらず環状ユニットを形成する滞留シーンの割合が大きい資料が多く見られたのに対し、郊外の映画では集中点が1~2個で、環状ユニットを形成する滞留シーンの割合が小さい資料が多くみられた。このことから、一つの場所に定位せず流動的な生活が行われることが都市の特徴であるのに対し、特定の場所を拠点とし、限定的な領域内で生活空間に求心性がみられるのが郊外の特徴であることがいえる。

3-2. 郊外の生活空間のイメージ ここでネットワーク図の分類に前章で位置づけた住宅描写パターンを重ね合わ

せて郊外の生活空間のイメージを検討した(図9)。住ネットワーク図の性格の分布をみると、数が多く見られた集中点の個数**1**かつ環状ユニットの割合**小**に着目すると、A-D全ての住宅描写パターンがみられた。このことから、生活の中心として住宅が描かれているかどうかにかかわらず郊外では特定の場所が中心となる生活空間のイメージを示している。それとは対照的なネットワーク図の性格である集中点の個数**2**かつ環状ユニットの割合**大**では、Dに偏りがみられた。これは住宅描写が少なく流動的ではないにしろ複数の生活の拠点が様々な場所を介して接続されることで、郊外の多様な生活空間のイメージを示しているといえる。

4. 結 以上、郊外映画にみられる場所の内容とその場所同士の接続を示す関係を図式化し郊外の生活空間のイメージを検討した。その結果、特定の場所が中心となる均質な生活空間のイメージと、複数の拠点が様々な場所を介して接続される多様な生活空間のイメージをもつという、対照的な生活空間のイメージを位置づけた。

- 註
- 1) 「地域固有の歴史、伝統、価値観、生活様式を持ったコミュニティが崩壊し、代わって、ちょうどファストフードのように全国一律の均質な生活環境が拡大した」
参考文献 三浦展：ファスト風土化する日本-郊外化とその病理、洋泉社、2004.9
 - 2) 東京近郊の定義は、国土交通省の定める「東京圏」から「都市圏」(東京23区、横浜市中区、西区の昼夜人口比率の高いエリア)を除いたエリアとして定義した。
 - 3) 資料は興行収入、受賞歴などの観点から社会的認知度が高く、高度経済成長期以後、1980年以降の東京近郊を舞台とした映画、30作品である。
 - 4) 森亮人他、「東京の日常を描写した映画にみられる都市生活像」
平成17年度人間環境システム専攻修士論文梗概集
 - 5) 滞留シーン、移動シーンの他に、地方や都市での登場人物の活動を描いた地方シーン(16シーン)、都市シーン(31シーン)もみられたが、郊外地域から外れるため資料対象からは除いている。

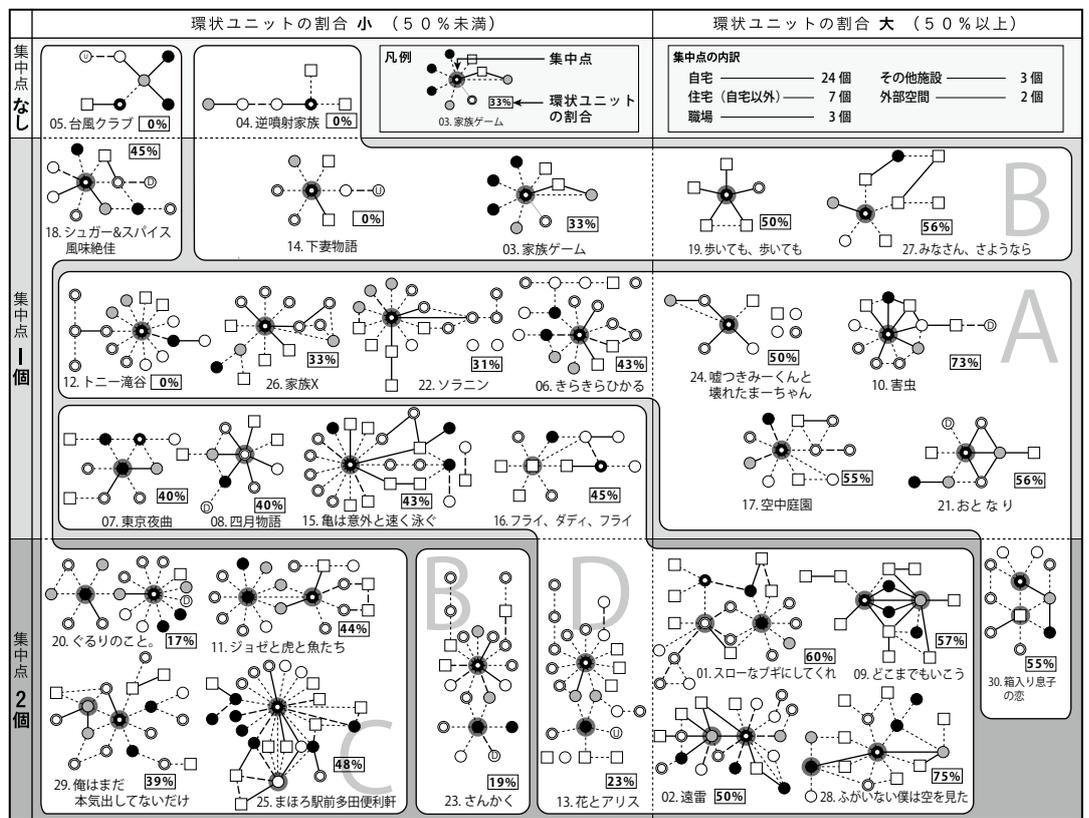
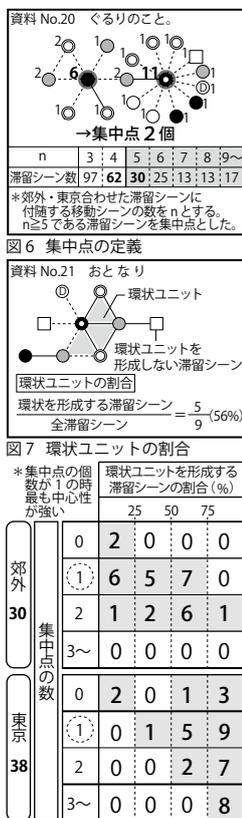


図8 ネットワーク図の性格

図9 ネットワーク図と住宅描写パタンの組合せ